

午前11時00分 開始

【広報広聴課長】 お待たせをいたしました。

定刻の時間となりましたので、10月の市長定例記者会見を始めさせていただきます。

最初に、お知らせを申し上げます。

報道関係者等に異動がございました。それによりまして本日初めてこの会見に参加されます方をご紹介申し上げます。福井新聞敦賀支社の泉様でございます。泉様、一言ごあいさつをお願いいたします。

【記者】 福井新聞の泉と申します。9月21日付でこちらに参りました。お世話になりますが、どうぞよろしくお願い致します。

【広報広聴課長】 ありがとうございます。

続きまして、本日、泉様のように初めて会見に参加の方もおられますので、例によってマイクの使用方法等について説明させていただきます。

発言の場合は挙手をお願いいたします。ご指名をいたしましたなら、前のマイクの下に銀色のボタンがあります。これを軽く触れていただきますとスイッチが入ります。それから発言をしていただきまして、発言が終わりましたなら、またボタンに触れてスイッチを切っていただきたいと思っております。この会見につきましては、市のホームページ上で公開するなどによりまして録音をしております。発言の内容を鮮明にするためにもマイクを使つての発言方にご協力をよろしくお願い申し上げます。

本日の進行につきましては、お手元の次第のとおり最初に市長のあいさつ、その後、事業発表を行います。質問は、最初にこの事業発表項目についてお願いいたしたいと思っております。その発表項目に係る質疑終了の後に、3番目のフリーの質疑応答へと進みたいと思っております。なお、終了はお手元の次第のとおり12時を予定いたしております。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

それでは市長、よろしくお願い申し上げます。

【市長】 久しぶりのネクタイ姿での会見でございます。気候のほうもちょっと寒くなったかなと思ったら、ネクタイをし出したらまた暑くなってしまいまして、なかなか気象がはっきりしないというわけでありまして、本日は本当に良いお天気になりまして、10月の記者発表をさせていただきます。

あとは座って発表させていただきます。

今回ちょっと項目が多うございますけれども、いろいろ行事ごともございますのでお許しをいただきたいと存じます。

まず第1点目でございます。つるが観光物産フェア2008であります。

私もいろんな特産品等もあるわけでございますけれども、全国の自慢市というような形といたしまして、またお互いいろんな友好関係もございますので、そういうきずなを深めながら毎年開催されております。今年は50の団体の皆さん方に参加をいただけるわけでございます。18日、そしてまた19日の土日を利用して開催いたします。きらめきみなと館、その周辺でありますし、特に今回、昨年までは緑地も使っておったわけですが、ご承知のとおり突風事故等もございまして、今年はそこを使わずに、きらめきみなと館の中を中心として、またその周りを会場として行いたい、このように思っております。

内容等につきましては、今お手元にいろんな資料が行っていると思っておりますので、よろしくお願いをいたしたい、このように存じます。

次に2点目でございますけれども、敦合祭（つるがっさい）と読みますけれども、3回目になります。

関西学院大学の学生さんを中心といたしまして、駅前のほうで学生たちが集える空間、これをつくって地元の敦賀短期大学の皆さん方との学生同士の交流、これはまだまだほかの大学も参加をいただいておりますけれども、やはり若いパワーといえますかそういうもの

が非常に感じられる大変すばらしいイベントだというふうに思っております。10月4日、5日で開催するわけでございます。この内容等につきましてもお手元にお配りしております資料のとおりでございます。

次に、20年度の敦賀市の防災訓練についてであります。

この訓練、今月の12日の日曜日に開催いたします。これは敦賀市で震度6強、マグニチュード7.2の地震が起きたとの想定で、北、南、そして東浦地区の住民の皆さん方を対象として実施させていただきます。訓練の規模につきましては、地区の住民約600名の方々と関係機関が約300名、またその他一般参加を含めると約1000人規模の予定をいたしております。

今回、特に新たな取り組みといたしまして、防災センター、ここが完成してから初めての訓練でございます。ここの場所を利用したいろんな映像の配信でありますとか、また県警ヘリから訓練会場への上空からの映像配信などを予定しているところでございます。

次に4番目でございますけれども、気象情報のメール配信でございます。

現在、防災放送チャンネルでお知らせしております突風また竜巻に関する警戒情報をTonBoメールから配信することにしたわけでございます。これは屋外などで作業を行っている方々、防災チャンネルを見ることができないわけございまして、最近かなりほとんどの方がこういう携帯電話をお持ちでありますので、そこでTonBoメールによる配信も非常に効果があるのではなかろうかということで今回配信をするものでございます。

次に5番目になります。監視カメラの設置ということになります。

廃棄物の不法投棄を防止するために、市のほうでは不定期でありますけれども夜間でもありますとか休日などに委託により監視パトロールを実施いたしているところであります。さらなる抑止を図るために、不法投棄が多発する重点地区に環境省の中部地方環境事務所の皆さん方の協力を得まして不法投棄監視カメラを設置いたします。このカメラにつきましては、不審車両などを自動的に感知しまして、赤外線機能によりまして夜間でも撮影が可能であります。蓄積されたデータを定期的に職員が回収してまいるわけであります。

設置場所、設置期間につきましては、どこにあるということが知れますと何の効果もございませんので、これは全くの秘密でございまして、場所を言うわけにはまいりません。どこにあるか分からないぞということで、仮に不法投棄をしようなんていう不届きなことを考えている皆さん方はぜひやめていただきたい、このように思っております。

次に6番目でございます。「奥の細道」つるが芭蕉紀行であります。

これも6回数えるわけでございますけれども、本当にだれでも参加できる、また楽しめるということで、5キロ、10キロ、20キロの3つのコースを設けておりますし、芭蕉さんのゆかりのあります史跡でありますとか、また私どもの観光スポットを楽しんでいただきたいながら歩いていただきたいなというふうに思っております。5日の日曜日に行うわけでございますけれども、緑地を10時にスタートいたします。そして赤レンガ倉庫前をゴールというふうにしております。今回、参加者は大変多くございまして、600名ほどの参加があるということでございます。これもお手元にチラシをお配りしてあるというふうに存じます。この内容でございます。

次に7番目でございます。敦賀市の訪中児童親善使節団の派遣事業であります。

外務省の海外安全ホームページの注意喚起情報に基づきまして派遣を延期いたしておいたわけでございますが、今回かなり落ちついたというそのような情報でございまして、子どもたちも楽しみにいたしておりますので、ちょうど10月10日から14日間、これは学期間休みというのが、ご承知のように私ども敦賀市は2学期制をとっておりますので、その学期間休みを利用いたしまして台州市のほうに行くわけでございます。市内の小学生、6年生が10名と指導者4名の計14名で行ってまいります。ホームステイ、1泊、2泊もありますし、学校間の交流、また市役所などの訪問なども予定いたしております。

次に、敦賀市訪中親善使節団でありまして、これはまた極東ロシアのポートセールスも兼ねているわけでございますが、その派遣についてであります。

特に親善使節団ということでの姉妹都市との交流と、そして極東ロシアの港湾、また市場調査と、そして私ども敦賀港のポートセールスを目的にポートセールス団を派遣いたし

ます。期間は10月28日から31日まで、3泊4日であります。うち韓国のほうにも寄りまして、船会社のほうにも行ってまいる予定でございます。団員は、私、議長、籠議員、そして秘書課の者、それと議会の者でございます、5名で行ってまいります。派遣先は、ロシア、ハバロフスク市、ウラジオストク市、ナホトカ市であります。

次に、公設卸売市場の活性化事業でありまして、「市場で朝市」というものを開催するというものでございます。

近年、流通形態の変革によりまして、全国どこでもそうなんですけれども卸売市場の利用が衰退傾向にありまして、私ども敦賀市も例外ではございません。市場の敷地内におきまして一般消費者の方々を対象に朝市を開催して、市場の利活用、また関連店舗の効率的な運営、そして地産地消の普及促進を図りたい。このような目的で行ってまいりたいし、市場は普段なかなか行かないところでもありますけれども、そういうところを一般開放していろんな方に見ていただくというのも一つの方策でございます。これは10月26日の日曜日でありますけれども、大体午前中、8時から12時ごろを予定いたしております。出店団体は約20団体でございます。チラシ等は10月24日の金曜日に折り込み等でお知らせしますし、あとは広報、RCN等々を通じてまたお知らせをしてみたい、このように思っております。

次に、敦賀マラソンの開催でございます。

私どももこのマラソン大会、本当に多くの皆さん方に参加をいただいておりますし、特に2キロ、3キロ、5キロ、10キロということで、本当にどなたでもこれも参加できる。特にファミリーの部というのが非常に今回参加が多うございまして、男子と女子と分けて走るようにしました。一遍ですと非常に数が多いということで、分けて行きます。合計で3425人の方にエントリーをいただいておりますので、昨年から比べると少し増加いたしているところでございます。10月19日、日曜日の午前9時にスタート予定でございますし、昔は運動公園から松原へ走っておりましたけれども、今は市街地を利用しようということで気比神宮前の神楽商店街のところでスタートし、最後は気比神宮の大鳥居を目指して走るというものでございます。

それと、前もちょっとお話ししておりましたけれども、危機管理講演会、前の突風事故を受けまして文部科学省等にいろいろお話をしておったわけでございますけれども、11月でございますが、11月26日でございますけれども、講演内容として「局地的な集中豪雨、雷」ということで、いろんな想定を超える豪雨、また突然変化する気象状況の仕組みを理解いただいて、今後の催事やイベント開催に役立つ心構えについて学ぼうというものでございまして、周知はまだちょっと時間がございまして、また間近になりましたら多くの皆さんにお知らせしますし、本来ですと来月の記者発表でもよかったんですけども、大体決まりましたので早目にお知らせをさせていただきました。

私のほうからの発表は以上であります。

【広報広聴課長】 ありがとうございます。それでは、ただいま市長から発表いたしました発表事項項目につきましてご質問を受けたく思います。最初に、幹事社さん、どうぞお願いいたします。

【記者】 まず、つるが観光物産フェアのほうでお伺いしたいんですけども、改めてお伺いしたいんですが、会場設営に関して大型テントも使用されるのかどうか、及びその防災対策。

あと、うろ覚えで申しわけないんですが、事故の四十九日ぐらいのときに、たしか文部科学省の調査の方が10月ぐらいにもう来るかもしれないみたいな表現でお伺いしたような気がするんですけども、あれは……。ありませんでしたっけ。

【市長】 まず大型テントは今回使用はいたしません。きらめき館の大きな会場を中心として。周りにテントを張りますけれども、杭を打ち込んで安全対策には万全を。大型テントでなくて、小型のテントがたくさん使えますので、安全対策には万全を期して行ってま

いりたいなというふうに思っております。

文科省の方の調査というのは、私が行っているいろいろお話ということはさせていただいて、今回のそういう講演とかにはなっただけですけども、具体的にその会場のあの事故の原因を究明ということは聞いておりません。

【記者】 あともう1点なんですけど、児童の訪中事業の件なんですけども、一応外務省の注意喚起が解けたということなんですけど、一方で最近、丸大食品の中国産加工食品の問題とか、まだ食の安全に関しては十分解明されていないような点が多いんですけど、その点に関する市としての認識と、あと関係者や保護者からその点に関して何か声とかは上がっているかどうか。

【市長】 声については、また担当からお話ししますけども、確かに今、食の安全問題が出ておりますけども、もちろんこれは台州市の皆さん方も私どもの子どもたちを受け入れるに当たっては万全を期してやっていただけるわけでございまして、そういう面では心配はいたしておりません。

ただ、不満の声というか、担当のほうから何かありますか。

【産業経済部長】 先般、7月から8月にかけて訪中児童使節団については、今市長からご紹介ありまして、外務省の海外安全ホームページの注意喚起情報に基づき中止したという経緯がございます。それを受けて今回、今月、学期休みを利用して行くことにつきましては、外務省の海外安全ホームページでは注意を喚起する情報掲載もありません。それと現地の旅行会社とか台州市の人民政府からの情報でも治安の安定等が確認されたため、今回事業を実施するものでございます。

【市長】 食の安全で親から何かそんな心配がなかったかと。

【産業経済部長】 大変失礼しました。そのような声はございませんでした。

【記者】 気象情報メールのことについてなんですけども、これは気象台がそういう突風情報を出したらメールで配信する感じでよろしいんですか。あと、いつからやるんですかというのをお願いします。

【市民生活部長】 市民生活部長でございます。私のほうからお答えします。

今おっしゃったように気象台からということでございますし、現在、防災放送チャンネル、9チャンネルで放送しております。その内容をメールでということなんですけど、当然、メールの場合、長くできませんので、かなりかいつまんだものになります。詳しくは放送で見てほしいということになります。

配信は今月からという予定でございます。10月から。

【記者】 TonBoメールで配信するということなんですけども、今、何人ぐらいですか。

【市民生活部長】 昨日現在、10月1日現在で3889人です。これはホームページを見ていただくと、すぐにアクセスして簡単にできますし、1円か2円ぐらいかかります。メール代だけでございますから、報道機関の方もぜひひとつ加入していただきたいと思っております。よろしくをお願いします。

【記者】 あともう1点だけ。さっき市長が一番最後に言われた11月26日の件なんですけども、これはどういう人対象というか、一般の人とかも、敦賀市で行う予定なんですか。今のところ、分かる段階でいいので。

【市長】 今のところは私ども敦賀市で開催いたしますし、どなたでも興味ある、例えば地区のいろんな行事を担当される方でもいいですし、一般の方で興味がある方で、もし来たいということがあれば。PTA関係とか。というふうに予定はいたしておりますけれども、会場も余り大きなところを取ってないもので、その状況を見て行いたいと思います。

【広報広聴課長】 それでは幹事社以外のほかの報道機関の方々の質問をお受けしたいと思います。

【記者】 不法投棄防止の監視カメラなんですけれども、場所は秘密だということなんですけど、大体いつから何カ所程度ぐらいに設置するかというところを知りたいんですけれども。

【市長】 間もなく、なるべくたくさんしたいと思うんですけれども。これも秘密です。本当はたくさん、いっぱいあったほうがいいんですけれども、ぼちぼちと。なるべく早くつけます。今日でもついていると思ってください。

【記者】 不法投棄のやつなんですけれども、増えているものなんですか、不法投棄というのは。どうなんですか、現状として。

【市民生活部長】 最近、家電製品なんかも有料ということになりますので、実際は増えておりますし、後片付けは結局公共でやらなければならない、また地域の方々がやっていただくということでございますので。ますますごみの分別とかそういったことを進めますと、どうしても邪魔くさいとかお金がかかっちゃうということで不法投棄になりやすい。特に敦賀はご存じのとおり8割から山間部でございますから、捨てようと思うとそういった場所は幾らでもあるわけでございますので、そういったことで少しでも防止の啓発になるのかなということで、今回、環境省の協力をいただいてそういう形をとりたいと思っております。

【記者】 例えば、増えているというのは分かったんですけれども、後片付けするときに市として予算をつけて、お金がこれだけ増えているというのがあったりするか、逆に重さでこれだけの重量が増えているとかあったり、指数みたいなのがあったりしますか。

【市民生活部長】 予算的に監視パトロール委託料としては77万7000円を盛っておりますし、不法投棄の収集運搬業務委託料では50万円の予算を盛っております。それから撤去委託料としては11万9000円等々という予算を盛っております。トータル的に186万4000円の予算を不法投棄に対してかけてございます。

状況では、トン数までちょっと今手元にはないんですが、かなり地域では18年度ですと9カ所でそういった看板の設置であるとか、そういったところでパトロールというようなこともやっておりますし、数量としてはデータを持っておりませんが、かなり増えてきていることは事実でございます。

【記者】 180万というのは今年度の予算ということなんですか。さっきお金いろいろ言われたのは今年度。

【市民生活部長】 はい、20年度の予算です。

【記者】 昨年度はなかったんですか。そういうお金は。もうちょっと低かったんですか。

【市民生活部長】 毎年この予算は盛っていると思いますので、そんなに増減はないと思っております。——昨年は150万です。ちょっと増えています。ごめんなさい。150万1000

円盛っております。

【記者】 まず1点、市場で朝市ということなんですけれども、10月26日に開催。こちらは継続的にされていく予定なのかどうかということをお聞かせいただけますか。

【市長】 まず先ほど言いましたように、開かれた市場で、市場をもっと元気にしたいということですので、第1回目の様子を見ながらそのタイミングを見て、今は秋真ただ中、また春の野菜のシーズンとかいろんなところがありますから、一度開催をしてみて、その状況を見てからまた判断したいなと思います。

【記者】 にぎわい等といいますか、来られた人たちの反応なども見ながら、また公設市場をどう盛り上げていくかということにつなげていくということでしょうか。

それともう一つ、よろしいでしょうか。先ほどの防災訓練なんですけど、新たな試みとしてといいますか、当然なんですけれども、防災センターが完成して初めて。センターと避難所を結んで画像伝送ということなんですけれども、具体的にどういったものを送られる、どこどこをどんなふうにするのかというのは、分かる範囲でお願いできますか。

【市長】 まず会場のところから現地のところへ配信をしたりとか考えています。

話は違いますが、昨日のワイマックスみたいな、ああいうやつがあるときれいな映像で移動中でもできますから、ああいうものも将来は入れるといいなというふうに昨日は感じたんですけども。今回は今うちにある、そろえる機材の中で対応していきたいなと思います。

【市民生活部長】 今市長お答えいただいたとおりなんですけれども、この本部と、現地会場というのは気比中学校のグラウンドになります。そういったことで、映像とか情報伝達の方法としましては、防災センターと避難所を結ぶ画像伝送訓練をやる予定をしております。それから情報収集訓練としましては、災害現場を結ぶ。防災センターと。こういうような形を今考えておまして、また被災地地上偵察訓練ということで、県の防災ヘリのほうからそういった映像をこちらへ流してもらおう。こういったことを今考えております。

【記者】 この対策本部のこのモニターに訓練をやっている気比中学校、多分グラウンドだと思うんですけども、そこでやっている訓練の様子がここに映し出されるということですね。

【市民生活部長】 そういうことでございます。

【記者】 あと防災ヘリからの映像も来るということですか。

【市民生活部長】 そのとおりでございます。

【市長】 大体、私は現場のほうに行くんですけども、まずここに入って、本部の中で指揮をする訓練。当然、もし本来そういうことが発生するところが本部になりますので、まずここへ入って映像でいろいろしてから、また現地へ行くという格好になるというふうに聞いています。

【記者】 2つ教えていただきたいんですが、気象メールの配信される基準といいますか、どういう場合に。例えば警報が出たときとかも、先ほどちょっとお話しになったのかもしれませんが、どういう情報を配信されるのかというのが1点。それから、市場で朝市の件ですが、市場はたしか魚とかは売ってないんですよね。20件ほど団体が出店されるということですが、そこでは魚等は売らないのかというのを教えていただきたいなと思います。

【市民生活部長】 それでは、気象情報のTonBoメールの配信についてお答えをいたします。注意報、警報というのは本当に頻繁に出ておりまして、すべての注意報、警報を出すわけではございませんで、現在、先ほど申し上げたように防災放送チャンネルで出しております内容が、雷注意報に付加されて出される突風、竜巻に関する注意報を8月の初旬から実は出しているんです。それを字幕でもって出しているんですが、今回その情報を今月からTonBoメールで出す。内容的には、先ほども申し上げたように長文ではできませんので、「大気の状態が非常に不安定となり竜巻等の激しい突風が発生するおそれがあります。詳しくは防災放送チャンネルをごらんください」と。あくまでも屋外でいろんな作業をなさったりとか、またいろんなイベントをなさっている方にTonBoメールでそういう注意を喚起できるという内容でございますので、すべての大雨とか、すべての注意報、警報を流すというものではございません。

【産業経済部長】 今回の朝市の件でございますが、晴明の朝市さんの関連業者もちょっとご協力いただいております。その中で鮮魚を売る業者もございまして、売ることになってございます。

【記者】 気象情報の今のメールのことで少し追加で伺いたいんですけども、まず1つは、注意報、警報は必ずしも全部出せるわけではないとおっしゃられたかと思っておりますけれども、注意報は確かに頻繁に出ますが、結構、警報ですとテレビのニュースもかなり重視になりますし、県の体制なんかも整ってくるかと思うんですが、警報も場合によるのかというのを一つ確認と、あと、これは例のテントの突風の事故を受けて強化するという一環でこれを始めたのか。そういう経緯でいいのかどうかだけ確認を。

【市民生活部長】 今おっしゃっていただいたように、やはりきっかけはテント事故ということでございます。風が事故の原因であったということから、今回はそれだけということで、ほかの雨であるとかそういったカテゴリーについては全く入っていないということでございます。

【記者】 港の話をちょっと。訪口の親善団、金沢とか境なんかには比べるとちょっと立ち遅れているので何とか動いてほしいなと思っていて、こうなるとどのだれにどういうふうな形でお会いになって、どういうセールスをするのかということと、例えばザルピノに社会実験をやりましょうという話もあるので、あれがどう見ても船会社さんが動いてないの見通しが我々心配をしているので、その辺も含めて現状と、向こうでどういった方と何をしてくるのか、ちょっと教えていただけますか。

【産業経済部長】 今回、ポートセールスの目的は2つございます。一つは、ロシアの関係の港の視察。これはナホトカ、ヴォストーチヌイ港の視察を関係者とやる。もう一つは、ロシアの物流事情を調査するということを目的に持っております。一つは外務省の関係の日本センターというセンターがございまして、その協力を得て、訪問先を今検討しております。もう一つは、ロシアのそういう事情、スーパー及びデパートを回りまして、どんなものが売れ行きがあるのかという調査も含めて物流事情の調査をやりたい。その3つの目的で行く予定でございます。今、企業等も二、三あるんですが、今回ちょっと発表は控えさせていただきたいと思っております。

【市長】 船会社自体、荷物の先ほど言いました調査。今のところ中国から日本へ来る荷物というのは大体把握できているんです。ロシアのほうが非常に経済的に伸びておりまして、中国も伸びていますから、昨日のニュースなどでは銀座やら行くと、ともかく買い物をどっさりして帰るといった情報です。ロシアのほうも沿海のほうは特に石油、天然ガスの関係で本当に経済は伸びていますので、非常にそういういろんな高級志向のものが売れ

ているという情報が入っていますから。そうすると日本からどういうものが持っていけるか。一番理想的なのは、ロシアへ持って行って荷物をおろし、空いたコンテナで今度は中国からの荷物を運ぶとなれば、そういうことが可能になりますと船会社も空っぽで行き来する必要がありませんので非常に有効的な航路になるんじゃないかという期待を込めて、そういうあたりの細かい調査をしていきたいなと思っています。

【記者】 この間の鞍山南で来年に管理会社をつくって運営しましょうという話で、もう少し県、市の積極的な関与をとという民間の話もあるので、何か踏み込んだ形で市はそれに対してお考えがあるのかどうか、ちょっと聞かせてください。

【市長】 私もぜひ県当局、知事を先頭として港を。といいますのは、金沢、富山、ほかの境港市でもほとんど知事が先頭に立って動いておりますので、ぜひ福井県知事も敦賀港のポートセールスと一緒に行っていただくと一番ありがたいなというふうに思っております。

【記者】 港はちょっと離れまして、4カ月ぶりに多田副市長が来られて、ようやく右大臣、左大臣そり踏みなので、多分客観的に見ておられると、リラ・ポートが否決されたりいろいろあったと思うので、一言感想をいただけますか。

【副市長】 せっかくのご指名でございますので。ベッドの上で感じた敦賀市政というのを側面から見せていただいたということで、実のところ悶々としておったことは事実でございます。ただ、ベッドの上にいる者が口出しをするのは非常に幅ったいということで、新聞報道、テレビの報道等も参考にさせていただきながらいろいろと感じるところはございました。しかし、医者の方から余計なことは考えるなというきついご指示もございましたので、それぞれの担当の方々が見えたときには思いのたけをお伝えさせていただきましたが。ただリラ・ポートについては、私もその間タッチいたしておりましたものですから大変残念な結果であったかなというふうに思いましたけれども、また、それが一つ乗り越えるともっと良いものになるのかなというふうな印象でございました。あと、それこれには非常にみんなよくやってくれているのではないかなというふうな印象を受けました。

以上でございます。

【記者】 監視カメラの件でちょっとお伺いしたいんですけども、環境省との協力ということだったんですが、解析結果、録画したものの解析結果というのは市が行って、結果出たもの、例えば車両だとか人物が特定された場合というのは市が何か注意喚起するのか、あるいは警察のほうに通告するのか。その具体的な流れみたいなものをお伺いしたいんですが。

【市長】 基本的には、私は犯罪だというふうに思いますので、警察に介入していただくのが一番でしょう。恐らく市が注意したぐらいで、そんなものなくなるというふうに思います。それと、私ども大体捨てる側に立てば目立たんところに捨てたいですね。恐らく今も、もっと細かく調べればいろんな谷底に落ちていたり、要するに人間の目につかないところもたくさんあるのではないかなとちょっと不安はあるんですけども、そういうものを抑止するための今回、監視カメラでありますし、抑止力という点でいえば、先ほど言いましたように警察へ行くのが一番いいのかなというふうに思います。

【市民生活部長】 やはり私どもの目的は、今市長申しましたように抑止なんです。摘発するというのは本来目的でございませぬから、本当は抑止効果ということをねらっているわけでございます。ですから今も、場所も台数も言えないというのはそういう部分も実はあるわけでございます。ですから本当に悪質であれば、そういうことをぜひやっていかな

ければならんなど思っておりますし、当然、後のデータ解析等々は私どもでやるということです。

これは実は、あわら市でも既にそういったこともやっておられるんです、県内では。ですからそういうものを参考にしながら進めていきたいなと思っております。

【記者】 突風事故の件なんですけれども、9月7日にたしか遺族の方にお見舞い金を持っていかれて、その後、ご遺族との損害賠償などの交渉はどうなっているのか。あと実行委員も交渉をしていくと思うんですけれども、その状況も分かれば教えていただけないでしょうか。

【市長】 私も当日お伺いさせていただきまして、お参りをさせていただきました。そういう中で非常に家族の皆さん方も、やはり大黒柱を失って将来不安であるというお話をされておまして。ただ私どもとしては、できる範囲の中でのお力添えはこれからも十分させていただきますという話もさせていただいたところでございます。

その後につきましては、市のほうに関しては何もお話もないということを私は報告は聞いておりますが、実行委員会としての話は、ちょっと私のほうからはぶんやりませんから、もし担当のほうで分かればお話をさせていただきます。

【産業経済部長】 実行委員会の件は、その辺の確認はとれておりません。

【記者】 では、市としてはまだ警察の結果を待つというスタンスに今のところ変わりはないのでしょうか。

【市長】 まず、分かりませんが、訴訟とかになりますと、その結果が瑕疵があるかないのかということで随分変わりますし、また訴訟がなくても、仮に瑕疵があるというふうに出れば保険が適用になるんですね。要するに私どもが加入している保険が適用になりますので、そうなった時点で速やかに保険会社に請求をして、少しでも役に立てただけならなというふうに思っております。そういう点では、保険に関しては結果待ちという状況です。

【広報広聴課長】 発表事項項目につきまして、ほかに質問はございませんか。

一応発表項目につきましては、もうないということで、次の次第のとおり3番目のフリの質疑応答に移らせていただきたいと思います。それでは、これも最初に幹事社さん、ありましたらお願いいたします。

【記者】 昨今、国会の衆院選挙が近いと言われてはいますが、敦賀市、地元自治体の長として一番今回選挙で注目するポイントというのはどこか挙げていただけますか。

【市長】 まず日程が早く決まってほしいなと思います。いろんな会場の段取り等々いろんなことがございまして、まだはっきりしていないということでもありますけれども。まず注目といいますと、やはり今これだけ景気が悪くなったり、アメリカの世界恐慌ではないかというような金融状況もありまして非常に不安定でありますから、できるだけ政治空白をつくらず、しっかりと経済対策をやって、国民の皆さん方の生活に影響の出ないような政治をやっていただきたいというのが希望でありまして、選挙ですが、これは自民党さんや民主党さんやらそれぞれの思いがございまして、その部分は地方自治体の長としては全く分かりませんので、発言は全く控えさせていただきます。

【記者】 あと、一応嶺南エリア、敦賀市も含めてですが、原発、拉致、新幹線と大きなトピックがあるんですけれども、その中で特に注目するところ、そういったポイントはありますか。

【市長】 国政の中の課題ですとたくさんございまして、新幹線もそうでありますし、原子力発電所のいろんなこれからの諸問題もいっぱい出てまいりますし、特に港湾についてもこれから上屋の整備、そして国土交通省のほうもポートセールス等については積極的に協力するというふうに言っていますから大変力強いんですけども、港のいろんな関係もあります。交通網の新幹線以外の高速交通網のいろんな整備もございまして多くの課題を抱えておりますので、そういうことが滞ることなく前進するようなことに期待をしております。

【記者】 最後にもう1点だけ。昨日ワイマックスの試験電波が流れましたけれども、一方で市長、式典の会場でも、市としても何らかの活用方法を検討したいという感じのことをおっしゃったと思うんですが、来年の4月1日の正式運営に際して、市として協調して事業を行いたいとかそういったことは検討されているのでしょうか。

【市長】 今直ちに、昨日ちょうど配信されたわけでありまして、現場でいろんな移動中の中からあれだけの映像があったりということでもありますので、これからいろんな防災、また減災には大きな効果があるなというふうに感じました。

また、これからのいろんな情報発信というのはいろんな手段を使わなくてはだめなんですね。例えば屋内の放送も大事でしょうし、ラジオ等を利用してやることも大事でしょうし、室内にいればテレビ、そういうものを通してやることも大事でありましょうし。だからある程度、多手段でお知らせするのが一番減災につながるというふうに思いますので。ワイマックスなどは非常にそういう中でも優秀な手段だというふうに認識していますから、今後どのような形で市として、また防災面、いろんな安全面、そういうものに生かせるかなということは十分に研究をしていきたいなというふうに思います。

【記者】 ということは、近々にというか、4月1日から是が非にでもというふうな感じではなく、状況推移を見守りながら何らかの対応ということでしょうか。

【市長】 予算の関係もございまして、いろいろとこれは研究をしなくてはならんというふうに思います。それと、いろんな連携といいますか、日本中がまた将来的には動いていくんでしょうけれども、そのいろんな仕組み等もございまして、RCNさんは日本中のモデルになるいろんなことをやっていただきます。そういうものを十分参考にさせていただいて、敦賀全体がそういう通信網、高速通信網のモデル地区になれるようなことも十分考えたいと思います。

【記者】 リラ・ポートの指定管理者のことなんですけれども、選定委員会、多田副市長も6月で否決されて注目が集まる中、マスコミとしては皆さん、選定委員会に行かせていただいて取材をさせていただきかかったのに、途中から非公開になってしまったことは非常に残念だなと思ひまして。市民もみんな注目している中、ああいう形になるというのはどうなのかなと思ひまして、市長としてというか、なかなか厳しいと思うんですけども公開にしてほしくて、市長としてお考えというか。

【市長】 これは選定委員会の中でお諮りをして、選定委員さんが決められたことでありますので、そのことに対して私からどうこう言うことはできないなというふうに思います。委員さんの中で、2社しかありませんから、どちらの皆さん方がサービス面、いろんな面、予算面、いろんなことをしっかりと自由に発言していただいて、しっかりと決めていただきたいなと。ただそれを願うだけです。

【広報広聴課長】 それでは、幹事社以外の報道機関の方、質問ありましたらお願いいたします。

【記者】 先ほど衆院選の話が出ましたが、敦賀でいうと今日午後から会議というか委員会もありますけれども、まちづくりと新幹線、来るか来ないかという話もありますし、選挙とも結びついてくるのかなというふうにも思います。そこら辺、新しい3区の衆議院議員、遅かれ早かれ選挙があるわけなんですけれども、どういうふうなことを期待されて、敦賀市として国がちゃんとやってくれないと市としても困るところがたくさんあると思うんですけれども、そこら辺要望があれば。

【市長】 私ども敦賀市とすれば、特に港関係も国に非常に関係ありますし、新幹線のいろんな決定事項も国に関係ありますし、道路網についてもありますし、港についても、また原子力行政についても非常に国とのつながりの私は多い自治体だと思うんです。いろんな面で敦賀市自体が。そういう面で、国として安定した政治運営をやっていただき、また地方自治体の大変苦しい中で、地方分権ということが言われながらも、まだしっかりしていない部分もございますから、国は国としての体制をしっかりと整えて、地方の時代に向けてしっかり対応していただきたいなど。ただそれを願うだけです。

【記者】 例えば今日午後ありますまちづくりというか駅周辺の話なんかですと、まさに国策、新幹線の話が敦賀のまちづくりに直接かかわってきて、それも今やるか先送りするのか、そこら辺迫られていると思うんですが、その点いかがですか。

【市長】 新幹線の問題につきましては、本来ですともっと早く結論を出していただければ私どもとしてもいろんな対応の仕方はあったんですけれども、それが今まだ全くの玉虫色でありまして、どちらへ行くのか分からないということで非常に苦慮していることは現実であります。今回、恐らく新幹線の問題点が選挙の争点の中に入ってくるのか。私ども福井県は特に県全体として力を入れておりますので、候補者の皆さん方がどのような体制で臨んでくるかということには興味はあるんですけれども、選挙の日程が決まらない。一体いつ結論が出るのかなということで、ちょっと不安は持っておるんですけれども。おっしゃるとおり、非常にまちづくり、駅周辺の開発、すべて関係してきますので、一日も早く安定して、早く良い結論が出てほしいなど。これも願うばかりです。

【記者】 選挙に絡んで、3区に2人候補者が出ていますけれども、市長としてどなたか特定の候補を応援するご予定はありますか。応援するまでいかなくても、例えば事務局開きに参加したりとか、あるいは応援弁士に立ったりとか、そういうご予定はありますか。

【市長】 実は私は地元の方が大事でありますし、地元の方が国政で頑張っていただけるということは非常にいいですから、ずっと高木毅さんの応援に回っております。今までの選挙の中でも個人演説会でありますとかそういうところに地元の市長として、地元の者が出ますので、地元の人をよろしく願いますということで回っておりますので、恐らく今回も選挙になれば、そういうことで地元の候補者を推す地元の市長として、ごく自然な行動を取りたいと思っております。

【記者】 さっきのおっしゃった理由というのは、政党とか党派とか関係なく、高木さんが敦賀出身だから地元の人、敦賀選出だからという、そういう理由なんですか。

【市長】 私の立場は、私自身の選挙というのは皆さんに応援してもらっております。民主党さんも、共産党さんも応援はしてくれませんが、おまえしかおらんということであいう形になっておりますので、政党の皆さん方に対しては非常にそれぞれの皆さん方が頑張っていらっしゃいますので、この政党だからこうだというのは非常にできにくい立場であります。ただ、地元の敦賀出身の方が国政の中で頑張ろうというふうに言っておられますし、現職として今も活躍されておられますので、その方を地元の者として推す

のが私は自然じゃないかなという自然体で臨んでおります。

【記者】 サンピア敦賀なんですけれども、再入札が近いですね。来週。ということもあって、ちょっと確認したいんですが、市として市長がお考えになっている支援策というんですか、落札した業者がリンクを存続するんだと。そう考える業者が落とした場合の市としての支援策というのは、具体的にはどういうことを考えていらっしゃいますか。

【市長】 これは前もお話ししましたけれども、スケートリンク場にかかる固定資産税がございいますから、その10年分ぐらいはまず免除ぐらいは最低はして、それをスケートリンクの改修とか運営とかそういうものに充てていただくことは応援策の一つかなというふうに考えてはおりますけれども、本当に落とされた皆さん方が、よし、これはどうしても残さないかなということやっていただければ、ほかに何かないかはまた十分に協議はしたいなとは思っていますけれども。

【記者】 10年分の免除ということは、裏返すと10年は存続しなさいよという条件つき。

【市長】 もちろんそうです。

【記者】 10年ですか。

【市長】 はい。最低まず10年。その運営がうまくいって10年後を見たときは、10年先ですからどなたがやっているかわかりませんが、できればその先も継続できるような支援をそこでまた改めて考えていけばいいんじゃないかなと思います。10年済めばそれで終わりじゃなくて、できればずっと敦賀にはアイススケート場があるよということは続けていけるように。恐らくあれもあれだけの施設ですから、営業的には非常に難しい施設ですので、ある程度。本来ですと大きな会社がバックアップして、ほかのスケート場なんかは皆、企業がバックアップしていますけれども、敦賀でもそういう企業さんがあらわれればまたお任せしますが、ない限りは市としてある程度応援をしていかないかなと思います。

【記者】 落札、決定した直後でも、日程上の都合があるでしょうけれども、すぐにでもその会社と、業者と接触して交渉に当たるお考えはありますよね。

【市長】 はい。もし決まりましたら、直ちに落札された方に対して署名のお話。知ってらっしゃると思いますけれども、これだけの希望があると。できるだけ今の近い形で残してほしいという多くの敦賀市民の声がありますので、ぜひ協力をしてほしいということでお話はしたいと思います。

恐らく入札される方も、今までの私の発言なり敦賀市のいろんな動き、また報道の皆さん方も報道していただいておりますので、恐らく全くそんな事情を知らずに札を入れてくる人はいないと思いますけれども、落とされた方としっかりと話し合いをしたいと思いません。

【記者】 国道8号バイパスの中池見の件なんですけれども、今回の市議会でも環境影響評価をするよという意見書が出まして、この間は河野先生も市長と面談されたんですけども、市として何か国土交通省なりに具体的に市議会のように環境の影響評価を求めよという動きあるいは要請というのを今後近くする予定というのはありますでしょうか。

【市長】 議会のほうで大変重い意見書というものを採択いただいて提出されますから、その動きをまず見ることも大事ですし、私どもとして、また市としてやらなくてはならないようなことがあれば対応したいなというふうに思います。なるべく道路もしっかり、あ

そこも危ないですから、事故につながってもいけませんし、その対応もしていただきたいし、自然も守りたいし、前にも言いましたように両立ができるような形で工事が進めばなというふうに願っておりますけれども。

【記者】 確認ですけれども、意見書が出たことでの動きを見て、市としても動くかどうかというところで、今のところは特に市として何か申し入れをするという予定はないと考えてよろしいですか。

【市長】 私の発言等も新聞等に出ておりまして、大概分かっていただいておりますので、市としての気持ち、議会としての気持ち全然離れていませんので、同じでありますから、あえて今、国土交通省のほうとしてどういうことでまた説明をいただけるかということのを待てばいいんじゃないかと思えます。

【記者】 蛇足的な質問になってしまいますけれども、先ほどワイマックスについて、事業者として質問したかったんですが、幹事社さんが出ましたのでとりあえず置きまして。多田副市長が発言されましたので、塚本副市長にも一言お願いしたいんですけども、先ほどの朝市でちょっと思い出したんですけども、昨年の何月でしたか、この定例記者会見で質問したんですけども、魚市場のほうの船だまりワークショップ、その後、昨年答申を出すといいながら、意見書のまとめかな、ちょっと忘れたんですが、あれ以降一切音さたないんですけども。産業経済部長さんもいらっしゃるのでお聞きしたいんですけども、あの船だまりのワークショップはどうなったのでしょうか。

【副市長】 魚市場自身が来年の春先に完成するわけで、それに付随して一緒にやっていきたいというのがうちの希望なんです。実はその折衝を産業経済部長を中心として、どれだけのものが民間の力として形になるかというような協議を実は進めています。ただ、表立って皆さんにお話しするようなレベルまではまだちょっと行っていないというのが実情です。ですけれども、決して死んではないということです。せっかく魚市場ができるんですから、それにあわせて民間も力を合わせて、そこに観光客を呼びたいというのが敦賀市の熱い思いです。

【記者】 来年の新規オープンに向けて、何らかの形で今後も協議を進めながら、青写真なりはかなりあのときは描いていましたよね、いろんな形で。その折衝も今後とも続けていきながらということですか。

【副市長】 その思いについては全然変わっておりません。

【記者】 青写真を必ず実現する方向でということでもいいんですか。

【副市長】 まさに今、努力しておりますから。

【広報広聴課長】 予定の時間が参りました。これで10月の市長の定例記者会見を終了させていただきます。

本日はどうもありがとうございました。

午後0時00分 終了